

エッセイ

原作
丸戸史明

イラスト
和遥キナ

出演
植田佳奈
下鶴直幸



舞台めぐり

STAGE MEKURI

Sound AR



西武鉄道

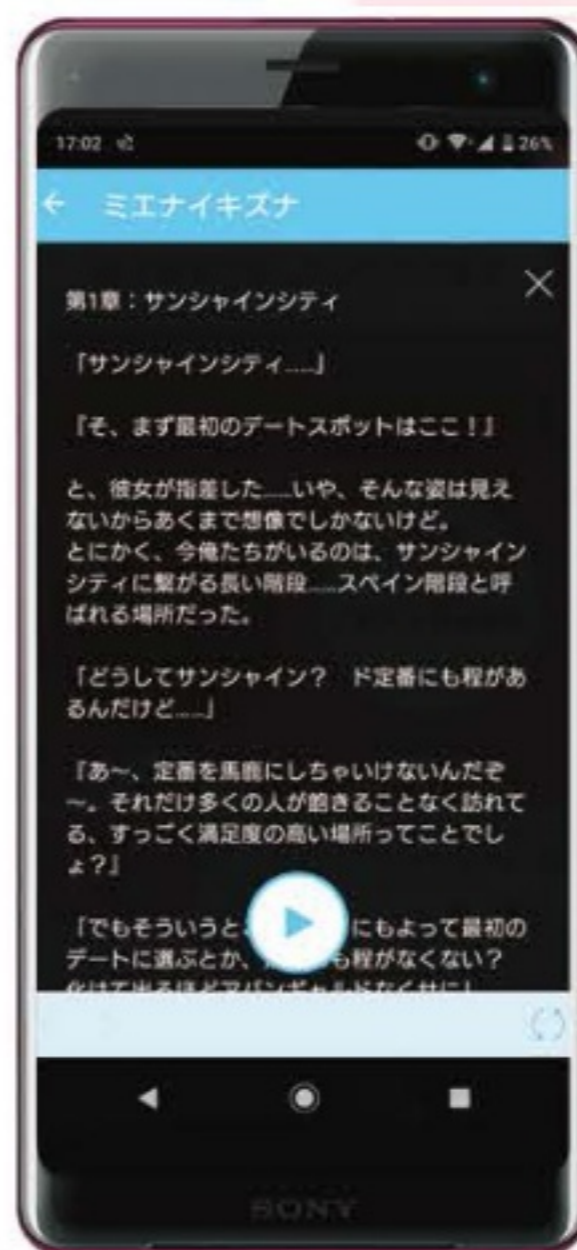
遊び方

「ミエナイキズナ」は、街を歩き、現地で聞こえてくるドラマを楽しむ体験型サウンドゲームとなっています。「チェックイン」することで紡がれるストーリー。現地で楽しむドラマ連動の写真撮影や、特定スポットに近寄ると聞こえてくるスペシャルボイスなどをお楽しみいただけます。

1 巻末のQRコードより「舞台めぐり」を起動しよう（お持ちでない方はダウンロード）



2 ミエナイキズナのトップページより「地図ボタン」を押して街へ繰り出そう



3 現地に到着したらスポットにチェックインしてストーリーを聴こう

4 全てのスポットをまわった後に、もらえる「エピローグカード」には秘密が...

※エピローグカード配布場所など、詳しくは「舞台めぐり」アプリ内イベントページをご確認ください。

ラリーマップ



🔊 駅ボイス

ストーリーボイス以外にも、各駅に設定された「駅スポット」でチェックインするとナビゲートボイスをお楽しみいただけます

プロローグ

「ねえ、デートしよう？」

「……まずい、うたた寝しちゃってたか」
机に突っ伏していた顔を上げると、手の甲に押されてた額が少しばかり熱を持っていた。

きつと鏡を見ると、額のあたりが赤く染まり恥ずかしいピジュアルになっていることだろう。

俺は寝ぼけ眼のまま首を振り、そのまますぐベッドに倒れこむと、今度こそ本格的に寝ようと体を布団の中に潜り込ませる。

今度こそ、変な夢を見ない本当の休息に、体と頭を誘うために……

「ちょっとお、せっかく女の子から誘ってあげてるのに思いっきりシカトしてんじゃないわよ！」

「せっかく夢って決めつけて、なかったことにしようとした俺の努力を台無しにするなよ……」

しかしまあ、こうして二度も、しかもハッキリと声が聞こえてしまった以上、“その声”に対して反応を返すしかない。

嫌な予感がして嫌だけど。とても嫌なんだけど。

「なあんだ、やっぱり聞こえてるんじゃない。まあ聞こえてたんなら余計に失礼な反応だけどね」

だって、ここは俺の部屋。

家族と相部屋でも、彼女と一緒に暮らしている訳でもない、孤独かつ気ままな一人きりの空間だ。

そこに突然、部屋の天井あたりから女の子の声が響いてきたら、それがたとえデートのお誘いだとしても胸ときめかせるのは無理な相談だ。

だって……

「それじゃ改めて……ね、デートしようよ、わたしたち」

「どうやって!？」

さすがの俺も、姿の見えない女の子とデートを楽しむほどストライクゾーンは広くないと思うから……

「ん～、なんでそんなにビビってるの？ あ、もしかして、今までデートしたことないとか？」

「あるよ!? 何度もしてるよ余裕だよ！」

「……なんか声裏返ってない？」

「そそそそれは、お前が、じゃない、君が姿を現さないからだよ！ いらない人間とデートなんかできるか！」

「いるってば～。どうして信じてくれないかなあ」

「普通ね、人はね、見えないものが存在するなんて信じたりしないから！」

「じゃあ、見ればいいんだね？ なあんだ、それなら早く言ってよ～」

「万物の真理をそんなに軽くスルーしないで……」
あとオカルト的存在のくせに、ら抜き言葉とか使わないでよ……

「ほら、こっちこっち……スマホのカメラを、わたしの声ができる方向に向けてみて？」

「こ、こう？ ……え？」

と、素直にカメラを向けてしまう俺にもいくばくかの問題はあったかもしれないけど……

けれど、もっともっと大きな問題は、俺のスマホ画面に映る、その景色の方で。

何しろそこには、確かに彼女の言う通り、見慣れた部屋の景色の中に溶け込む、俺よりちょっと年上くらい

かなって感じの、女性の姿が。
え？ なにこれ、かなり、いや、めっちゃ可愛……
「いや怖っ！ めっちゃ怖っ！」

『……存在を信じてくれたのは嬉しいけど、その失礼
なりアクションで台無し』

「ご、ごめ……いや怖がって当然でしょ！ どうなって
んのこれ！」

『ついでにシャッター押してみて？ そしたらもっと信
じられるようになるから』

「……写ってる」
言われるがままシャッターを押すと、今度こそスマホ
の中に、彼女の画像がしっかり保存される。
いや、カメラで捉えられてるんなら写るのは道理だけ
ど、それにしても……

『という訳で、わたしの存在を認識してくれたよね？
認識したということは存在するということよね？』

「う……」

『ということは、わたしとデートすることにも OK して
くれたということよね？』

「いやその理屈はおかしい」

『も～、強情だなあ。そんなに意地張っていると、こっちも
意地になって憑りついちゃうよ？』

「やっぱ幽霊じゃん！」
昭和どころか平成も終わりだっていうこのご時世に、
なんてアナクロな……

『ううん、幽霊なんかじゃないよ……まあ、君の態度次
第では、悪霊になっちゃうかもしれないけどね～』

「俺、憑り殺されるの？ デートが済んだら君の仲間
になっちゃうの？」
しかも脅迫まで始めたよ……

『それはそれで楽しそうだけど……きっとそうはなら
ないから安心してよ』

「前向きだなあ……悪霊のくせに」

『君こそ、人間のくせに悲観的過ぎじゃない？』

いや、ここまで存在感を強くアピールする悪霊に憑り
つかれて前向きに生きるのは難しいと思うんだけど。
そもそも生きるのが難しそうだし。

『それじゃ、覚悟……じゃなくて、準備はできた？』

「い、いや、その前に……」

『なに？』

「まだ聞いてなかったけど……名前は？」

と、彼女は、スマホの画面越しに、ほんの少し驚きの表
情を浮かべ……

『わたしの名前は、ゆかり。よろしくね？』

そして、悪霊らしくない、屈託のない、めっちゃ可愛ら
しい微笑みを浮かべた。

ミエナイキスリナ

キャラクター紹介

『ね、デートしようよ、
わたしち』

—そんなセリフとともに唐突に俺の部屋に現れた、スマホのカメラ越しにだけ姿が見える、謎の女の子。

かなり強引に俺をデートに誘おうとする行動の裏には、なにやら彼女なりの思惑があるようだが……。

名前 ゆかり

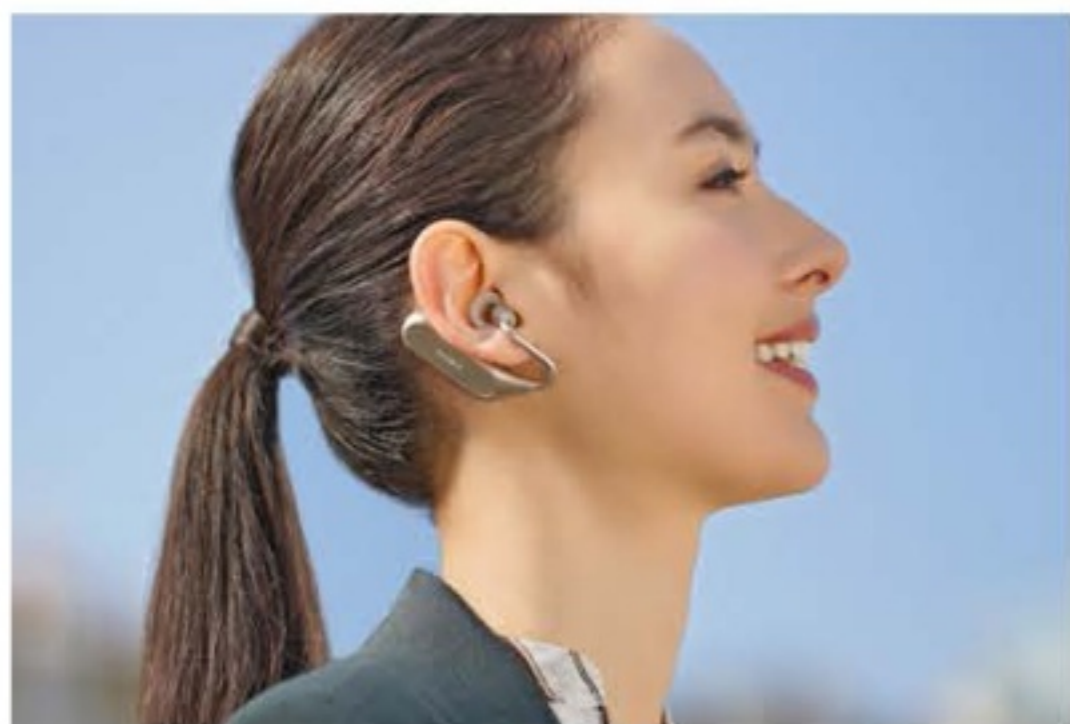
年齢 不明(ちょっと年上?)



Xperia Ear Duo

耳をふさがないソニーのオープンイヤーヘッドセットで
街がさらに楽しくなる!

現実世界の音と仮想世界の音が混ざり合う「Sound AR™」体験



「ミエナイキズナ」をお楽しみいただく際に、ソニーのオープンイヤーヘッドセット (Xperia Ear Duo/STH40D) をご使用いただくと、周囲の音を聞きながら、同時にヒロインの声も聞くことができ、まるで実際に街でヒロインとデートしているような「Sound AR™」体験をお楽しみいただけます! より臨場感あれる音声をお楽しみいただくため、バイノーラル録音で収録されたボイスはソニーのオープンイヤーヘッドセット用にチューニングを施しています。



Xperia Ear Duo

完全ワイヤレスのオープンイヤーヘッドセット。
スマート機能の搭載により、音声やヘッドジェスチャーで、通話の発着信やLINEメッセージの送受信、音楽再生操作など、先進的なハンズフリーでの様々な操作ができます。



STH40D

有線タイプのオープンイヤーヘッドセット。
4色カラーパリエーションでカジュアルに楽しめます。

詳しくはこちら▶ <https://www.sonymobile.co.jp/product/smartproducts/open-ear-style/>



舞台めぐり

B U T A I - M E G U R I

スマートフォンアプリ「舞台めぐり」とは？

アニメの世界が体験できる舞台探訪ARアプリ。アニメのストーリーや登場人物にゆかりのある場所を訪れ、アプリを使って「チェックイン」をすると、その場所でアニメシーンと同じ構図を確認したり、登場キャラクターと一緒に撮影したりできます。また、その日の思い出を簡単にあなただけのアルバムにすることができます。現地チェックイン特典として、作品声優によるオリジナルボイスや壁紙をプレゼント（対応作品限定）。街を盛り上げるデジタルスタンプラリーや、代替現実ゲームにも対応しています。



舞台めぐりを
始めよう！

舞台めぐり

検索



協力：日本大学芸術学部 練馬区 ねりま観光センター

©舞台めぐり / © Sony Music Communications Inc.